

7 青少年の健全育成について

(1) 「家庭の日」「とちぎの子ども育成憲章」の認知度

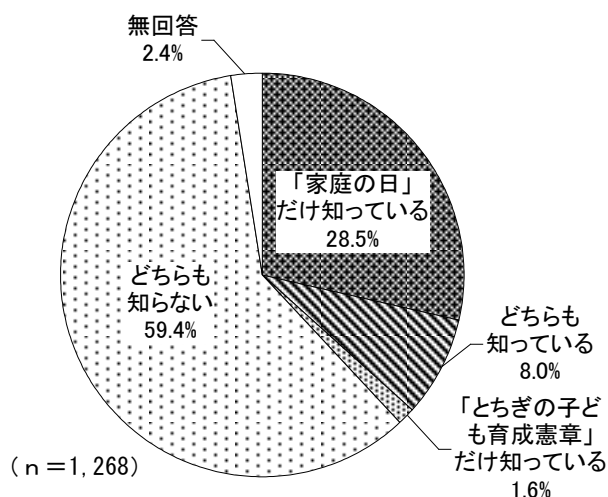
問17 あなたは、「家庭の日(※1)」（毎月第3日曜日）及び「とちぎの子ども育成憲章(※2)」を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※1 「家庭の日」とは、家庭は、青少年が基本的な生活習慣や規範意識の基礎を身につけ、人格を形成する上で大きな役割を担う大切な場であることから、家族のふれあいづくりのきっかけとするために、県が定めたものです。

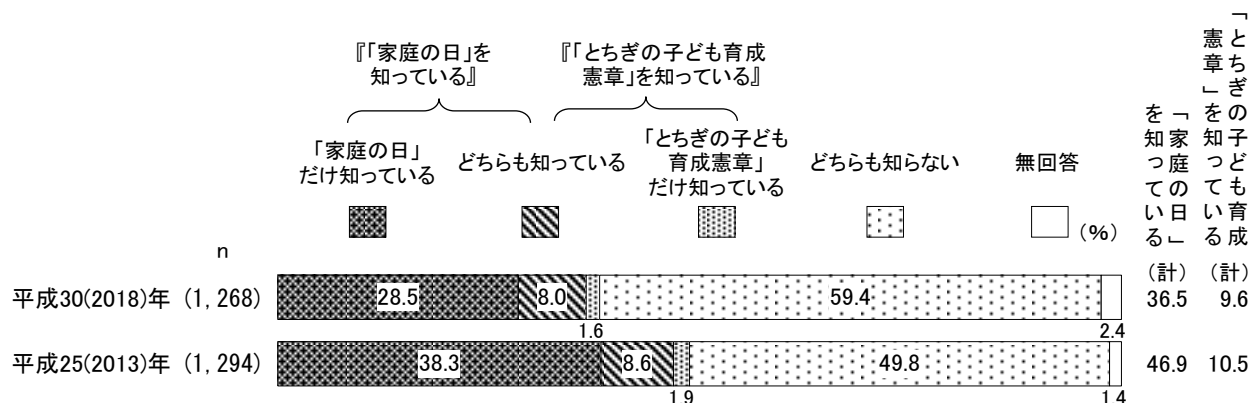
※2 「とちぎの子ども育成憲章」とは、子どもたちが夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長するために親や周りの大人がより積極的に子どもの成長に関わるための“基本理念”や“行動指針”として平成22年2月に県が制定したものです。

[n=1,268]

1	どちらも知っている	8.0%	3	「とちぎの子ども育成憲章」だけ知っている	1.6%
2	「家庭の日」だけ知っている	28.5	4	どちらも知らない	59.4
				(無回答)	2.4

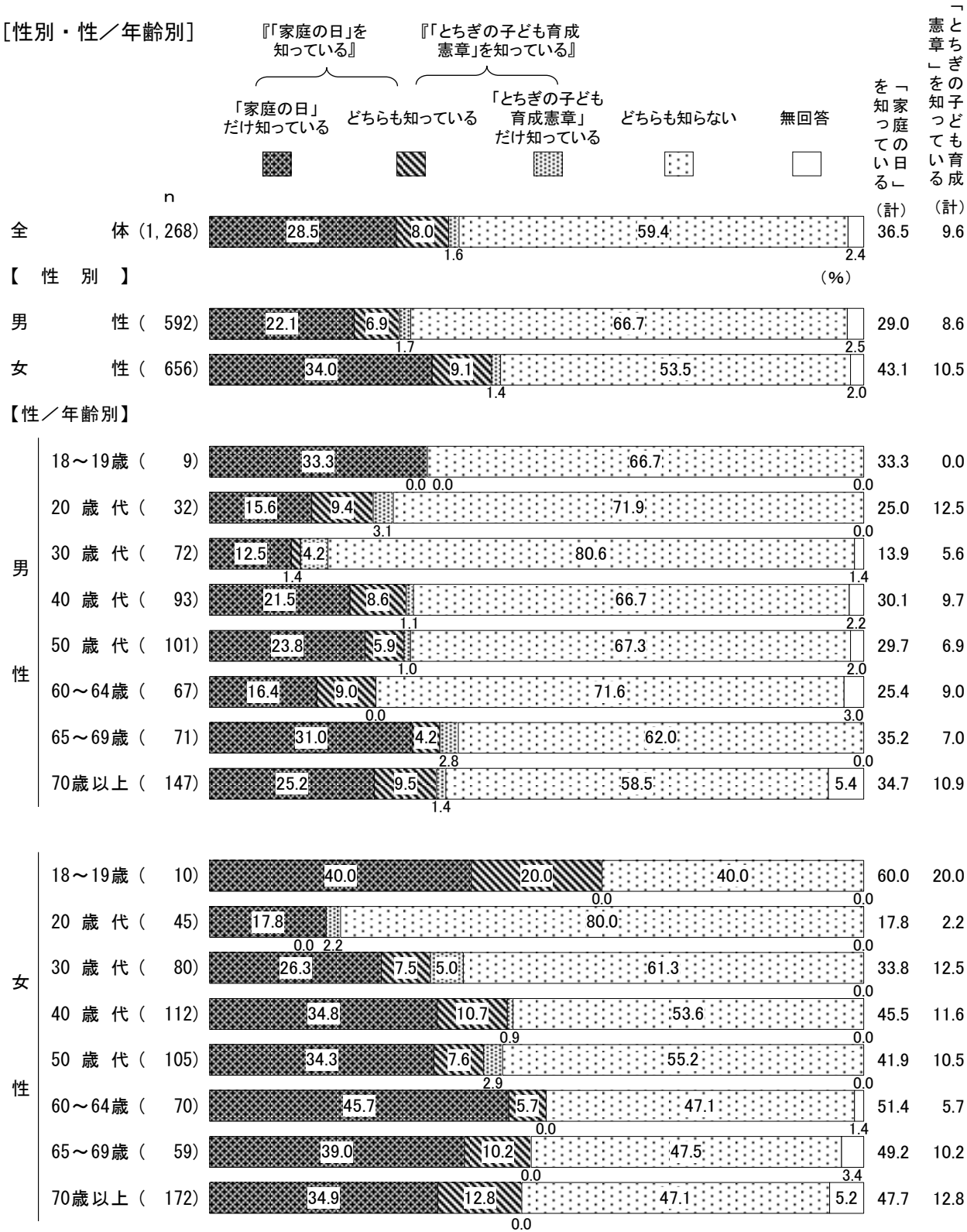


全体でみると、「家庭の日」だけ知っている (28.5%) と「どちらも知っている」(8.0%) の2つを合わせた『「家庭の日」を知っている』(36.5%) は4割近く、「とちぎの子ども育成憲章」だけ知っている (1.6%) と「どちらも知っている」(8.0%) の2つを合わせた『「とちぎの子ども育成憲章」を知っている』(9.6%) は1割となっている。一方、「どちらも知らない」(59.4%) はほぼ6割となっている。



平成25 (2013) 年の調査結果と比較すると、『「家庭の日」を知っている』が10.4ポイント減少している。

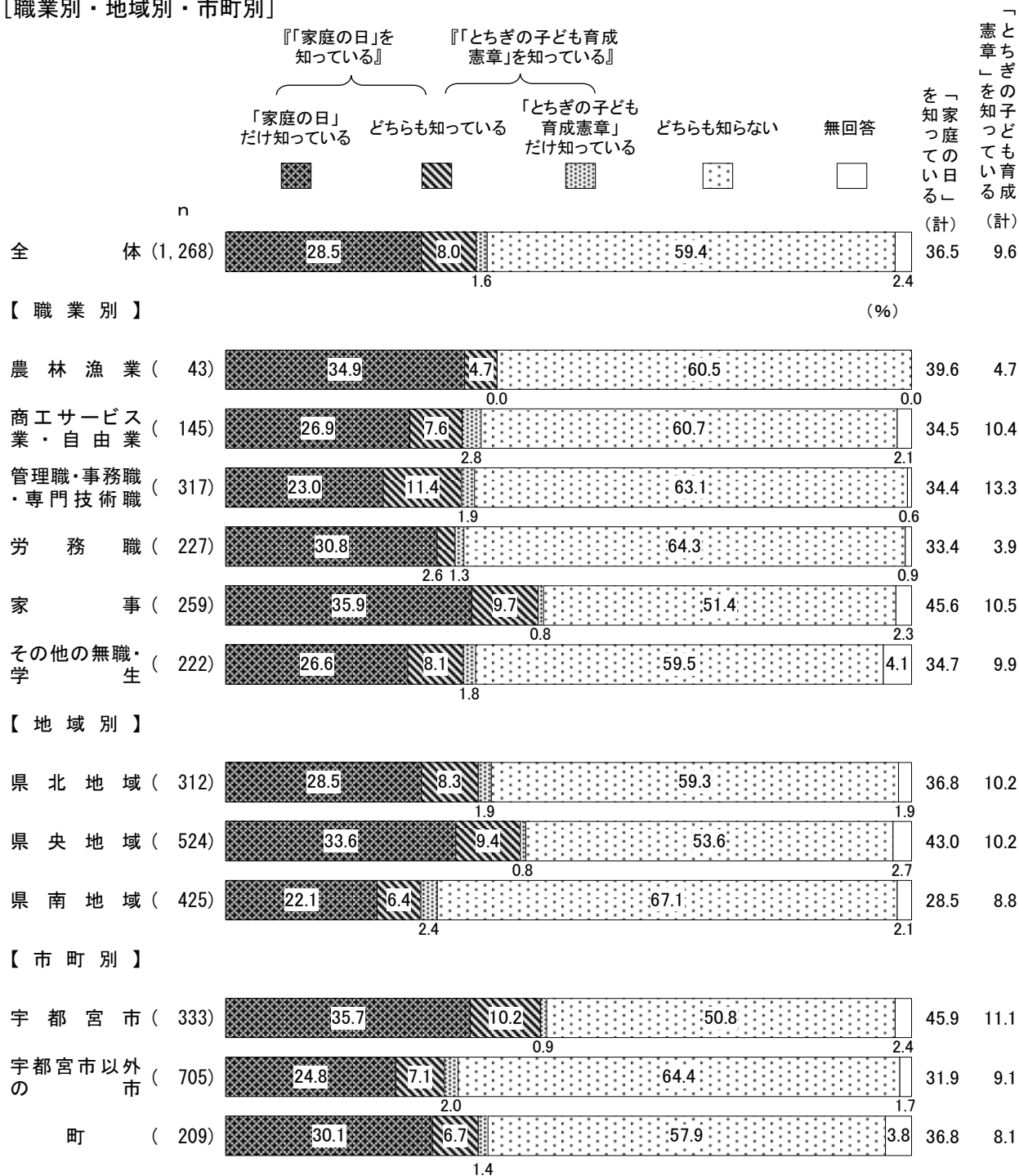
【性別・性／年齢別】



性別で見ると、『「家庭の日」を知っている』では〈女性〉(43.1%)が〈男性〉(29.0%)より14.1ポイント高くなっている。「どちらも知らない」では〈男性〉(66.7%)が〈女性〉(53.5%)より13.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『「家庭の日」を知っている』では〈女性60～64歳〉が51.4%、〈女性65～69歳〉が49.2%と高くなっている。「どちらも知らない」では〈男性30歳代〉が80.6%、〈女性20歳代〉が80.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『「家庭の日」を知っている』では〈家事〉が45.6%と高くなっている。
 地域別でみると、『「家庭の日」を知っている』では〈県央地域〉が43.0%と高くなっている。
 市町別でみると、『「家庭の日」を知っている』では〈宇都宮市〉が45.9%と高くなっている。

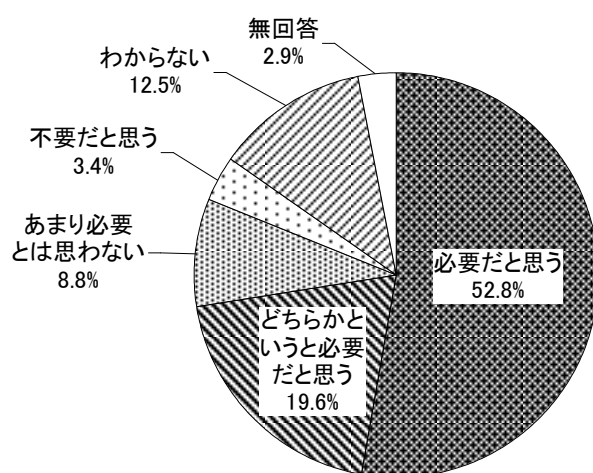
(2) 青少年が利用する携帯電話等にフィルタリング機能を設定することについて

問18 あなたは、青少年（18歳未満）が利用する携帯電話等（スマートフォンやゲーム機含む）に、「フィルタリング機能」（※）を設定することについて、どう思いますか。次の中から1つ選んでください。

※ フィルタリング機能とは、パソコンや携帯電話などのインターネットに接続できる機器について、有害情報（犯罪・自殺誘因情報、わいせつ情報等）の閲覧を制限する機能をいいます。

[n=1,268]

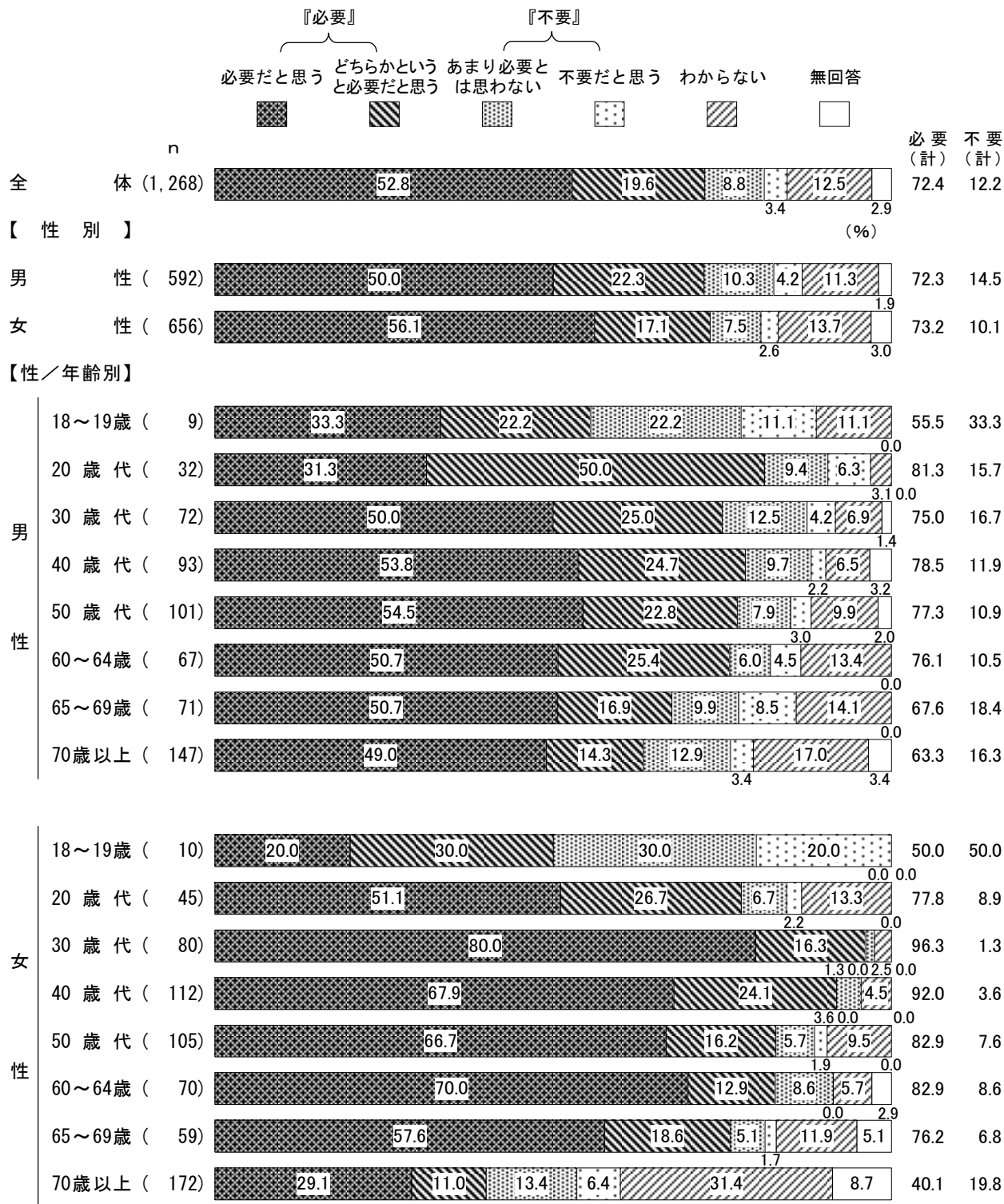
1	必要だと思う	52.8%	4	不要だと思う	3.4%
2	どちらかという必要だと思う	19.6%	5	わからない	12.5%
3	あまり必要とは思わない	8.8%		(無回答)	2.9%



(n=1,268)

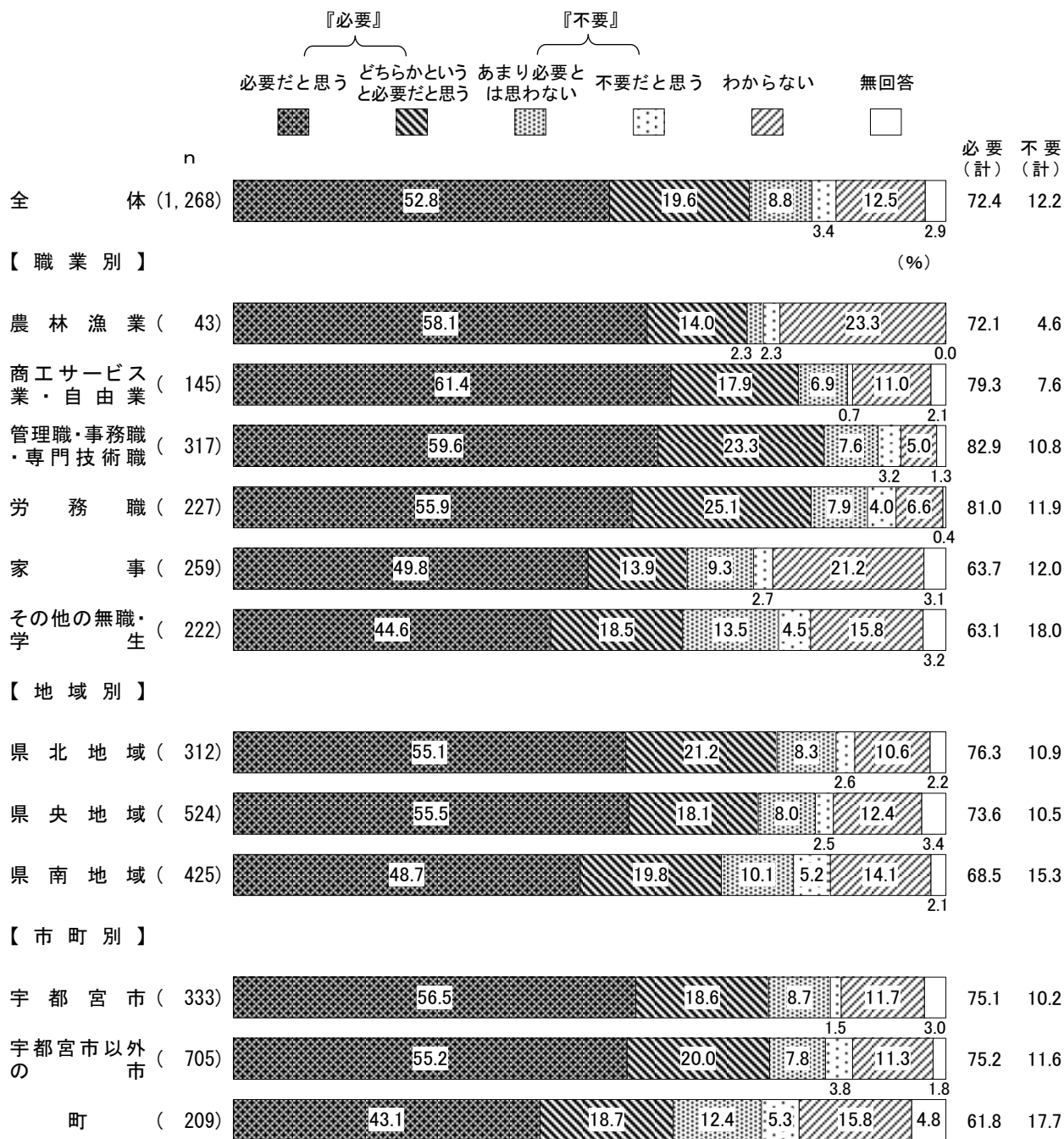
全体で見ると、「必要だと思う」（52.8%）と「どちらかという必要だと思う」（19.6%）の2つを合わせた『必要』（72.4%）は7割を超えている。一方、「あまり必要とは思わない」（8.8%）と「不要だと思う」（3.4%）の2つを合わせた『不要』（12.2%）は1割を超えている。

[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『不要』では〈男性〉(14.5%)が〈女性〉(10.1%)より4.4ポイント高くなっている。性／年齢別で見ると、『必要』では〈女性30歳代〉が96.3%、〈女性40歳代〉が92.0%と高くなっている。

〔職業別・地域別・市町別〕



職業別でみると、『必要』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が82.9%、〈労務職〉が81.0%、〈商工サービス業・自由業〉が79.3%と高くなっている。

地域別でみると、『必要』では〈県北地域〉が76.3%と高くなっている。

市町別でみると、『必要』では〈宇都宮市以外の市〉が75.2%、〈宇都宮市〉が75.1%となっており、〈町〉(61.8%)に比べて高くなっている。

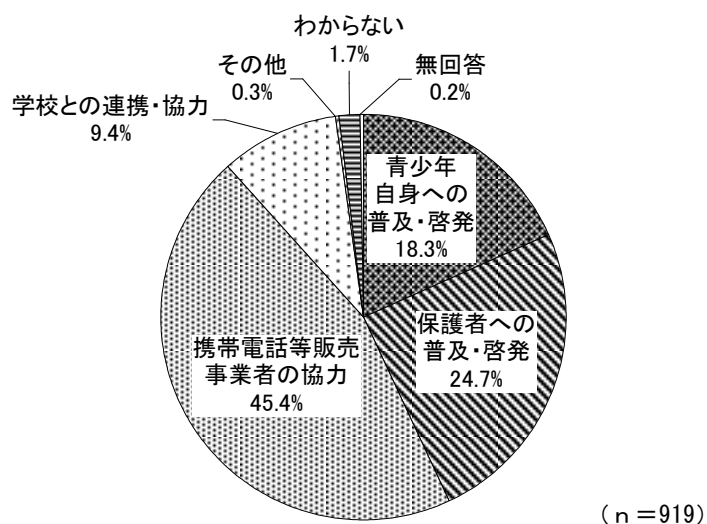
(2-1) フィルタリング機能の利用率を向上させるための取組

(問18で選択肢「必要だと思う」、「どちらかというとな必要だと思う」を選んだ方のみお答えください)

問18-1 あなたは、フィルタリング機能の利用率を向上させるためにはどのような取組が効果的だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

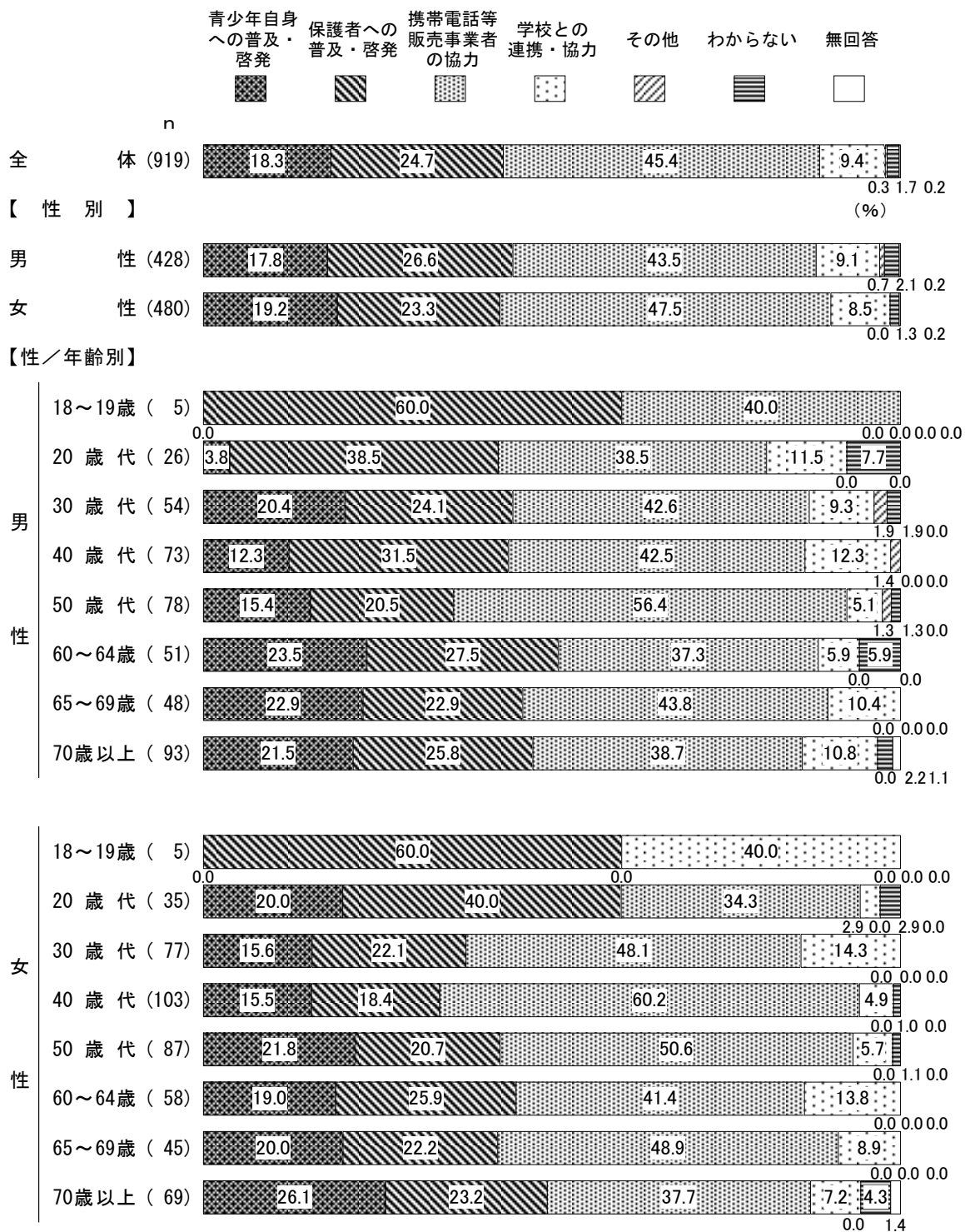
[n=919]

1	青少年自身への普及・啓発	18.3%	4	学校との連携・協力	9.4%
2	保護者への普及・啓発	24.7%	5	その他	0.3%
3	携帯電話等販売事業者の協力	45.4%	6	わからない	1.7%
				(無回答)	0.2%



全体でみると、「携帯電話等販売事業者の協力」(45.4%)が4割半ばで最も高く、次いで「保護者への普及・啓発」(24.7%)、「青少年自身への普及・啓発」(18.3%)、「学校との連携・協力」(9.4%)の順となっている。

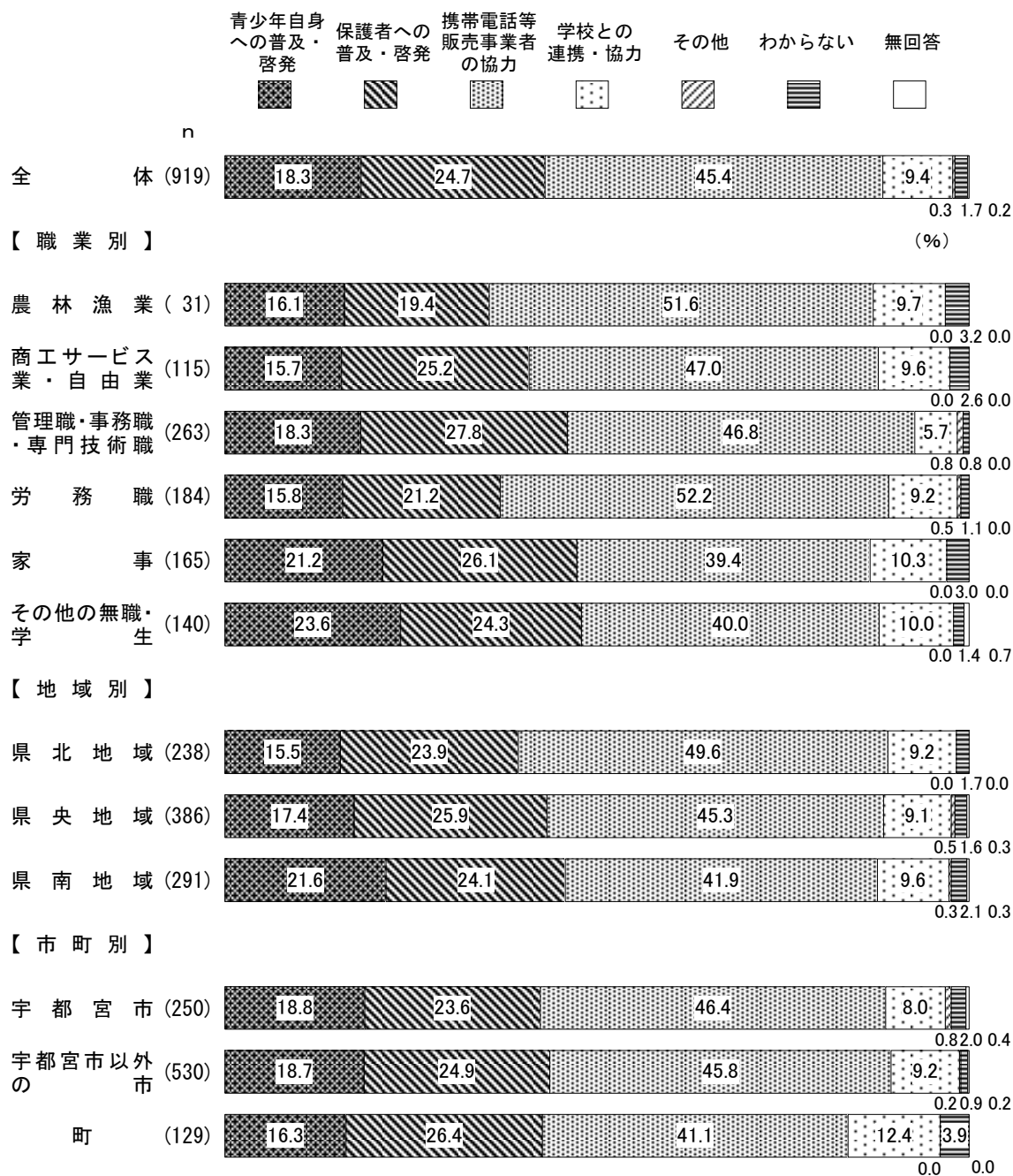
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「携帯電話等販売事業者の協力」では〈女性〉(47.5%)が〈男性〉(43.5%)より4.0ポイント高くなっている。「保護者への普及・啓発」では〈男性〉(26.6%)が〈女性〉(23.3%)より3.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「携帯電話等販売事業者の協力」では〈女性40歳代〉が60.2%、〈男性50歳代〉が56.4%と高くなっている。「保護者への普及・啓発」では〈女性20歳代〉が40.0%、〈男性20歳代〉が38.5%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「携帯電話等販売事業者の協力」では〈労務職〉が52.2%、〈農林漁業〉が51.6%と高くなっている。「青少年自身への普及・啓発」では〈その他の無職・学生〉が23.6%と高くなっている。

地域別でみると、「携帯電話等販売事業者の協力」では〈県北地域〉が49.6%と高くなっている。「青少年自身への普及・啓発」では〈県南地域〉が21.6%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。